

# 60年ぶりの再会



# ようこそ

第 29 号

浄土真宗本願寺派  
円光寺

〒870-0108  
大分市三佐3-15-18  
TEL.097-527-6916  
FAX.097-527-6949

(上) 13年の世代を超えて  
52名の同窓生が出席  
しました  
(8月1日、円光寺本堂)

(右上円内) あきら先生

(左) みんなで遠足に行くことも  
ありました (昭和30年頃)



## 「お帰りなさい」

八月一日、懐かしい面々が円光寺の本堂に集いました。普段のお寺のご縁とはちよっと違う顔ぶれです。お互いに恐るおそる顔を覗き込んで「〇〇ちゃん？」と声をかけ合い「久しぶりやなあ！」と応じて、堂内のあちこちで幾つもの輪ができ、歓声（しやうけしやう）が弾みました。

「浄華塾還暦同窓会」を思い立ち、父・昭然（しやうねん）前住職（平成11年11月1日往生）の八十八歳米寿の誕生日に、開催することになりました。

今から約六十年前、長兄が亡くなり三男の晃（あきら）（昭然）が住職後継者として古里・三佐（みさ）に帰り、始めたのが「浄華塾」でした。古い本堂に中学生を集めて数学と英語を教える、学習塾でした。寺子屋的雰囲気の中にも結構厳しい指導で生徒たちの成績も上がり評判も上って、三佐ばかりでなく家島や鶴崎からも生徒が集まって、数年後にはお寺の境内に専用の教室が二棟も建つ盛況ぶりでした。

当時小学生の私（晃照現住職）は、中学生のお兄さんお姉さんから可愛がられ、授業前の時間などに三角ベースの野球をしたりして遊んでもらった楽しい思い出があります。とにかく人がたくさん集まり、いつも賑やかなお寺でした。

皆さん還暦も過ぎて、仕事も子育ても一段落しいいお歳になりました。「本堂も新しくなりお寺の佇まいは変わりましたが、円光寺は変わらずここに在ります。皆さんが帰るところ、お寺への道をつくってくれたのが父です。お寺に帰って本堂に帰って往ける、いのちの古里Vを仏さまの教えに聞いてください。それが父の願いです。これからもお寺に、あきら先生に会いに帰って来てください。お帰りなさい」と父に代りお話ししました。

# 地域の皆さんに 開かれたお寺をめざして

## ある提案

四月の総代世話人会の懇親会でのこと、当日の会議で門徒総代長を退任したばかりの清松博人さんから「ご院家さん、お寺にAEDを置きませんか」と提案がありました。急なことで「えっ」と聞き返しました。病气や事故で心肺停止状態の方をより早く救命処置する器材で、ニュースでAEDのおかげで助かったという話は何度か聞いていました。すぐ横にいた岸田孝義さん(三佐二区自治会長)が一校区



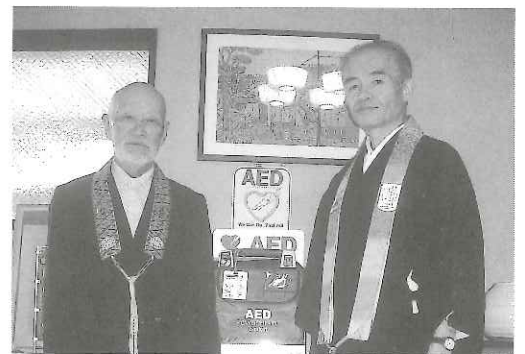
救命救急講習会のようす (7月18日)

## 救命救急講習会

でも実際AED(自動体外式除細動器)がどんなものか、設置したのはいいが、使い方がわからなかったらなどという問題がでてきました。

そこで消防署に勤務の三浦千年さんに相談して、消防署から出向いただき救命救急講習会を開くことになりました。7月18日に開催、21名が参加し全員に修了証をいただきました。

そして10月16日の常例法座のご縁にAEDをお寺の庫裡の玄関に設置しました。何かがあった時のことです。使わない方がいいんですが、設置することで救命救急への意識を持つていただくことになりました。



庫裡玄関にAEDを置いています  
持ち運び自由です。ご利用ください  
清松博人前総代長と晃照住職

## お寺つながりお念仏のなかま

今回のことで嬉しいことがたくさんありました。お寺を中心にした日頃からの人と人とのつながりとお念仏さんのお寺を思ってください。本当に有難いことです。

日頃から、気持ちをもって、  
「いねいに、ご本尊(南無阿彌陀仏)を中心に、お念仏申す生活させていただけますよう。」「いつも私が一緒だよ。どんなことがあっても決してあなたを捨てません」という阿彌陀さまのご本願のお心を聞かせていただき、あらゆる人々が共に寄り添い支え合い、心豊かに生きる事ができる社会をめざして、私にできることを精いっぱいさせていただきます。

## 世々生々

緊張の一瞬、音声と共に「TOKYO」の文字が飛び込んできた。後は何とも言えない歓声と誰彼となく飛びあがり抱き合う姿がテレビ画面に踊った。二〇二〇年のオリンピック東京開催が決まった。49年前の東京オリンピック。日本中が沸き上がった。首都圏を中心に高速道路が整備され、新幹線が走った。極東の地から戦後復興した日本の姿が世界中に発信された。以来日本は高度経済成長を果たし、私たちの生活は便利で快適になった。◆オリンピック招致はバラ色の未来を約束するという論調が威勢いい。夢をもう一度、強い日本を取り戻そう、景気回復で成長戦略等々◆便利な生活は反面不自由さを伴う。ボタン一つで何でもできるというが、そのボタンが故障したらたちまち生活はお手上げだ。自分では直せない。専門家に頼めばお金をかせばいい。全ては当てにならない◆東日本大震災による原発事故は、そのことを思い知らせてくれた。コントロールドキないモンスターに振り回される現実が続く。次世代に先送りできない、極めて重い私たちの課題だ◆本当に豊かな生活って何だろわか、仏さまのみ教えに聞かせていただく。



### お母さんの聖典

ご門徒さんのお家にお参りしたときのことです。お勤めの後、若い奥さんがお仏壇の引き出しから一冊の聖典を取り出して見せてくれました。

お母さんの聖典でした。以前お寺の法要の記念品に全門徒さんに贈った黒い表紙の聖典(黒本)です。頁をめくると所々に字が書きこまれていました。何か懐かしく有難く思いました。

もう九年前に往生されましたが、何年間もずっと近所の方と二人でお寺のお朝事にお参りされていました。手垢がいつぱいついたボロボロの聖典です。

一カ月や二カ月であんなに手垢はつきません。一年二年でもです。それほどまでにお寺にお参りされ、お家のお仏壇でお勤めされていたんだと思うと、感慨深いものがあります。

毎日のお勤めです。晴れの日ばかりでなく、雨の日も風の日もあつたと思います。心配事があつて心重たい日もあつたと思います。そのなかでも毎朝決まつた時間に、お寺のお朝事にお参りされていたということでした。



町角伝道掲示板 (11月のことば 八坂、山村憲生・ミツ子ご夫妻)

嬉しいこともあつたと思います。色んなことがあるなかで、一頁一頁聖典をめくりながら、一緒にお正信偈さまのお勤めをし、お念仏申して、阿弥陀さまに相談したり、報告することもあつたと思います。本当に有難いことだなあと思っています。

今度その奥さんがお寺の聞法会に参加することになり、聖典(黒本)を使うということ、家に帰つてお仏壇をさがしたらお母さんの聖典が出てきたということでした。

お母さんの聖典はお寺でお預かりして、新しい聖典を差し上げますので、ご縁ご縁にお持ちしてお寺にお参りしてくださいとお話したことです。 私たちの日々の生活には色んなことがあります。今日お参り

## ご案内

- ◆御正忌報恩講
  - 11月26日(火) 13:00~15:00
  - 同 19:00~21:00 (子どもほうおんこう)
  - 11月27日(水) 11:00~15:00
  - 同 19:00~21:00
  - 11月28日(木) 10:00~12:00
- ◆常例法座
  - 12月16日(月) 10:00~11:30
- ◆除夜会(鐘つき)
  - 12月31日(火) 23:40より
- ◆元旦会
  - 1月 1日(水) 除夜会に引続き
- ◆初法座
  - 1月 2日(木) 10:00~11:00
- ◆常例法座(親鸞聖人祥月御命日)
  - 1月16日(木) 10:00~11:30
- ◆常例法座
  - 2月14日(金) 10:00~11:30

“月に一度はお寺参りしましょう”

※詳しくは『寺通信』でご確認ください。

お朝事にお参りしましょう  
△毎朝6時30分〜7時▽

の皆さんも生活ぶりはそれぞれ違いますが、こうして一堂に阿弥陀さまの御前に座ることができるといふこと、ご一緒にお念仏申すことができるということ、お寺のこと、お寺の先人、ご先祖有縁の方々のおかげさま、今はお浄土の仏さまとなつてこの私をいつでもどこでも護り導くおはたらきをしてくださっているとお聞かせていただきます。南無阿弥陀仏の大きな大きな願いのなかに、いのちみんなつながつて、お互いに生かされて生きているんだなあと、今朝またご一緒にお勤めをしながらあらためて思ったことです。(10月19日)



常朝事同行四人衆の皆さん (左から) 藤澤 廣さん、岸田シズエさん、清松カツ子さん、田仲 進さん

### 常朝事お同行が

また一人できました

田仲進さん(出町)がこの一年間ずつとお朝事にお参りされ、九月一日の誕生日に、記念の式章とお祝いのお花を贈りました。

お寺のご縁にお参りしましょう

お聴聞させていたただきましよう

「仏法は聴聞に極まる」「仏法には明日はあるまじく候」と蓮如上人は重ねてお示しです。忙しいから、まだ若いからと先延ばしするのではなく、ただ今のご縁をわが身にいただいで、つとめてお聴聞いたしましょう。報恩講、降誕会、春秋両彼岸会に布教使の先生にご縁をいただきます。一人でも多くの方にお参りしてほしいと思います。「いつしよにいこうえ」と声をかけ合い、お参りください。

第33回サマースクール



小学生26名と中学生7名が参加しました(8月2日~3日)



大分教区少年連盟の巡回班に人形劇やゲームで大いに盛り上げていただきました(8月2日)



秋季彼岸会 ほれぼれと仏法聴聞(円内) 流 智道ご講師(野津町尊形寺副住職)(9月21日)



十三夜の月を愛でながらお抹茶をいただき、ゆっくりゆったりと秋の夜を一緒にしました(10月17日)

お月見会



70歳以上の66名のお同行が出席、声高らかにお念仏申しました(10月1日)

敬老会



今年は天気に恵まれ2年ぶりに境内に踊りの輪ができました(8月12日)

第15回盆おどり大会

人生の節目〜にお念仏申しましよう

(上)円成会七月誕生会 (7月1日)  
(下)宮崎敬一郎・妙子ご夫妻(鶴崎)が華寿・喜寿の記念にお参りされました(7月11日)



あ と が き

あるお家のご法事のご縁、イス席が用意され親戚縁者の方が座っていた。今はお寺の本堂もイス席に変わってきた。生活様式が変わり、正座する機会が少なくなつた。足が不自由でお参りがままならないという。これが現実。足の痛さを気にせず、ゆっくりゆったりとお勤めしてほしい、お聴聞してほしい。粋なおもてなしである。イス席で正座の必要はないが、威儀を正して仏さまにお参りする舞いが素敵な人は美しい。